

## 津川拓也さん 2013IPC水泳世界選手権 モンリオール大会に出場しました

ロンドンパラリンピックの100m背泳ぎで6位入賞された津川拓也さんが、8月12日から18日までカナダのモンリオールで開催されました2013IPC水泳世界選手権大会に出場し、お母さまより競技結果とともにご報告をいただきましたのでご紹介させていただきます。

## モンリオール2013水泳世界選手権大会 のご報告

津川 智江

もう一つの世界水泳であるモンリオール2013水泳世界選手権大会が行われ、拓也は200m自由形と100m背泳ぎに出場しました。

7月の下旬には東成育成園のご理解のもと、かなりの練習量をこなしましたが、「めばちこ」ができ(拓也は練習時間が長くなるとゴーグルの刺激で出来ることがたまにあります)治らないまま薬を持参しての遠征となりました。

8月6日から8日まで日本代表チームと合流して国立スポーツ科学センター(通称:JISS)での事前合宿の後、成田空港からトロントを経てモンリオールへ移動するという長旅です。その上、飛行機を乗り継ぐ際には搭乗予定の飛行機に間に合わず長時間の乗り換え待ちとなり、さらには飛行機間での荷物の受け渡しがうまくいかず、スーツケースが現地に到着していないといったアクシデントから始まりました。幸い翌日には、荷物が届いたようですが、カナダに到着した1日目の夜の電話は「にもつがない…」ととても不安な声で一言だけ…元気がありませんでした。初めての環境が苦手な拓也には、自分の荷物が無いなんて胸がつぶれそうな気持ちだったと思います。

モンリオール到着後は、少し元気が無かったようですが現地練習をして大きく体調を崩すことなくレース当日まで過ごせていたようです。

大会2日目に行われた200m自由形では、決勝への出場ラインは2:04.00台と思われ、拓也が決勝に進むには大大ベスト!を出さないは無理です。通常の練習は、専門の背泳ぎが中心で自由形の練習には余時間が割けず余力でやっていた状況ではありましたが泳力はアップしていましたので、自己ベストの2:06.29を越えてくれるのではないかと考えていましたが、予選第3レースを2:09.48で泳ぎ、総合16位となり

残念ながら決勝に進む上位8名には入ることができませんでした。後に同行してくださったコーチからお話して、自宅を出発して約一週間、遠征の疲れが出ていた頃だったようです。原因は私が生活面のサポートを上手く伝えきれなかったことに尽きます。しっかり反省し次回の大会では、ベストな状態でレースに望めるように拓也にも日常生活の中で食事の取り方、水分補給のタイミングなどをパターンにはめながら教えて行きたいと思います。そしていよいよ大会3日目には専門の100m背泳ぎです。背泳ぎの今年の目標は1:03.00台と設定し練習してきました。疲労の件もあり心配しましたが、予選第2レースを1:06.23で泳ぎ、総合8位となり決勝進出!決勝では1:05.57で、ひとつ順位を上げ7位入賞!!万歳!!!です。ただ、入水して「テイクユアマーク!」(合図)とパーン(ピストル)までが早かったのか、少し(ピストルの合図から0.71秒後ですが)出遅れたこととゴールタッチが合わなかったように見えたのがちょっと残念ではありますが、自己ベストの1:04.23にも及びませんでしたが、予選よりタイムを上げることができ、初めてのプールでよく頑張ってくれました。ロンドンパラリンピックに出場したメンバーが揃った中で、ロンドンでは運良く繰り上げで決勝に進みましたが、今回は実力で決勝に進み、さらには順位を上げられたという点では大きな収穫でした。家に帰ってきた時には笑顔で出迎え、結果を共に喜び、大好物のお寿司とアイスでお祝いしました。

8月21日に帰国するまで2週間以上も気持ちを支えてベストコンディションに整えてレースに出し結果を残さないといけないコーチのみなさまのご苦勞は、大変なものだったと思います。4回目となる世界大会に望むにあたり何か私に出来ることは無いかと思い今回は、いつも拓也に持たす指示書の中に「夜寝る前に、かあさんに電話する」を入れました。私からの一方的な会話ですが声を聞けるとお互いに安心できて、拓也が熟睡できれば体調が整うかなと考えま

